

瀬戸内海燧灘沿岸部の海苔養殖に及ぼす陸域由来栄養塩供給変化の影響 Effect of variation in the nutrient supply from terrestrial area on the coastal seaweed cultivation in the Hiuchi-Nada

齋藤 光代^{1*}, 小野寺 真一², 日高元喜³, 徳増 実⁴, 大西 晃輝², 清水 裕太²

Mitsuyo Saito^{1*}, Shin-ichi Onodera², Genki Hidaka³, Minoru Tokumasu⁴, Koki Onishi², Yuta Shimizu²

¹ 日本学術振興会特別研究員 PD, 愛媛大, ² 広島大・院, ³ 広島大, ⁴ 西条市

¹JSPS PD, Ehime Univ., ²Grad. School of Hiroshima Univ., ³Hiroshima Univ., ⁴Saijo city

近年瀬戸内海全域に共通の傾向として養殖海苔の色落ち・不作が深刻化しており, その原因究明および対策は急務の課題とされている。これまで, 下水道の普及等にもなう陸域からの栄養塩供給量の減少が, 海苔不作の一因となっている可能性が指摘されてきた。しかしながら, 栄養塩供給経路は地表水のみでなく, 厳密には地下水や海底堆積物からの供給も考えられることから, それらを含めた複合的な影響評価が不可欠である。そこで本研究では, 海苔養殖に及ぼす陸域由来の栄養塩供給量変化の影響について検討することを目的とし, 全国有数の青海苔の漁場である瀬戸内海燧灘沿岸部を対象に, 最近約 40 年間の海苔養殖量と栄養塩供給量の変化との対応関係を確認した。また, 地下水由来の栄養塩供給の影響等についても検討を行った。

* 本研究は, H24 年度科学研究費補助金 (特別研究員奨励費), 河川整備基金助成および日本生命財団環境問題研究助成 (代表: 齋藤光代) の支援により行われた。